

施設におけるコロナ陽性者発生時の対応について

施設で感染者が発生している時には、以下の対応を参考に感染対策をお願いします。

施設で陽性者が発生

施設による抗原キット陽性の場合は、連携医等へ連絡し、診断をうける。

陽性者発生を
関係機関に連絡する

菊池保健所、入所者の関係施設等に連絡し、情報の共有・対応確認を行う。

陽性者を隔離する

他の入所者と接触しないように個室隔離する（陽性者同士を集めるのはOK）。
個室隔離が難しいときは、同室者とカーテンやパーテーションで隔離する。

裏面「①陽性者の対応」参照

他の入所者については、
部屋移動はせず、固定する。
※職員は他部署との出入りを控える

陽性者と同室の人は「濃厚接触者」となる。濃厚接触者は他者との接触を避けるため、共有スペースの使用は控え、居室対応とする。
※個別ごとの感染対策の徹底が大切です。

裏面「②入所者の対応」参照

入所者と全職員の体調を確認。症状がある方は受診・検査を行う

症状のある人は受診する。症状の理由がはっきりするまでは他者との接触を減らす。
職員は出勤を控える。

施設の感染対策を早急に確認する

- ・手指の消毒
- ・感染防護衣の使用（適切な脱衣）
- ・換気
- ・施設の消毒

チェックリストを参考に早急に施設の感染対策を確認し、対応する。

裏面「①陽性者の対応」参照

【問い合わせ先】

菊池保健所 保健予防課 TEL:0968-25-4138 FAX:0968-25-4126

感染防止対策の詳細

- 「換気」「手指消毒」「サージカルマスク」が重要です！
- 不適切な感染防護衣の使用により、職員が感染源にならないよう気を付けましょう！

①陽性者の対応

■療養時の療養・健康観察

- ・陽性者は、原則、施設での療養となります。
- ・夜間や休日等に備えて、連携医や協力医等に早めに連絡し、薬の処方（ラゲブリオ含む）や点滴等の処置対応について相談してください。
- ・体調悪化に備えて、改めて延命措置の希望について確認をお願いします。

■換気と消毒の徹底

- ・食事中は、常に換気をしてください。その他の場合は、30分に1回程度を目安に、空気が通るように換気してください。
- ・職員は手指消毒薬を携帯する、または、陽性者居室内外に消毒薬を設置するなど、必要な時に頻回に消毒できるようにしてください。
- ・手指消毒薬や環境整備には、適切な濃度のアルコールや次亜塩素酸Naなど、効果のあるものを使用してください。

■適切な感染防護具の使用

- ・感染防護衣は、適切に使わなければ、「自分も感染する」、「自分が入所者に感染を広げる」ことにつながります。介助の場面に応じてメリハリをつけ、正しく使いましょう。
- ・陽性者に関わる職員は固定化しましょう
 - （必須）マスク、手指消毒（※手袋を使う場合は、一人ずつ交換か、手指消毒）
 - （追加）食事・入浴介助、口腔ケアの場合 →フェイスシールド
 - 排泄介助、抱えるなどの身体接触がある場合 →手袋、ガウン
 - 吸引がある場合 →N95マスク

<感染防護具を使用する際の留意点>

- ・陽性者の部屋（汚染エリア）に入る時に使用する
- ・脱衣用廃棄箱を準備する（手を触れずに廃棄します。蓋はなくてもかまいません）
- ・感染防護衣を脱ぐ時には感染しないよう、表面に触れないように十分注意する
- ・1動作につき1手指消毒を行いながら脱衣する
- ・使用後の感染防護具をつけたままで清潔エリアに入らない
- ・使用済みの感染防護具は感染性廃棄物として処理する

②入所者（陽性以外）の対応

■陽性者が発生した場合は、濃厚接触者の有無に関わらず、既に感染が広がっている可能性があります。

- ・症状がある人は速やかに検査を行い、診断を受けてください。
- ・陽性者の同室者や食事の席が近い人などは、体調を注意深く確認してください。
- ・陽性者が複数人発生した場合は、抗原キットでの一斉検査を検討してください。
- ・できるだけ入所者は居室で過ごしていただき、食事等も個別対応してください。
- ・通所サービスの利用は、健康観察期間が終了し、症状がないことが確認できるまで控えてください。

■陰性の人の中に、新たな陽性者が潜在しています。感染を広げないために、特に、入所者ごとの感染防護衣、手指消毒が必要です。

（感染防護衣は、陽性者への対応方法に準じて対応してください。）